

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立厚木小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 清水 良

学校教育目標

学校経営の方針

豊かな人間性を持ち、たくましく生きる児童の育成
 かんがえる子【創造】 創造的に発想できる子
 やさしい子【共生】 まわりの人を大切にできる子
 がんばる子【挑戦】 失敗をおそれずチャレンジする子

- 日本国憲法、教育基本法等関係諸法令並びに神奈川県教育ビジョン、厚木市の教育大綱に基づいた学校経営を展開する。
- 共生社会の実現に向け、自他の命を尊重し、互いの良さを認め合う心情を育むため「インクルーシブ教育」を推進する。
- ESD（持続可能な開発のための教育）の視点で教育課程を編成及び実施し、自ら考えて行動する力の育成に努める。
- コミュニティスクールとして、地域の「思い」や保護者の「願い」を大切に「地域と共にある学校づくり」をめざした学校経営に努める。



今年度の重点目標

確かな学力 主体的・対話的で深い学びで確かな学力を身につけ、学力の向上を目指すとともに、創造的な発想を生かし、様々な課題に柔軟に対応できる能力を育む。
 豊かな心 自己決定を積み重ねることで、自己肯定感を高めるとともに、周りの人とのより良い関係を築ける豊かな心を育む。
 安全・地域ふれあい 自他の命を守るための安全意識の向上と実践力を身につけさせるとともに、家庭や地域社会の一員としての主体的な態度や協働の意欲を育む。
 健やかな体 自分の健康や体力に興味を持ち、健康の増進、病気やけがの予防、体力の向上を目指して、努力する姿勢を育む。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
児童が主体的に取り組む授業の実践	1・3	児童が主体的に学ぶ授業づくり（単元計画の工夫・振り返りの充実）	校内研究で「主体的に学ぶ児童の育成」を目指し、全領域で研究を進め、各教科の特性を意識した授業づくりを行った。単元計画の工夫や児童の振り返りの充実を進め、主体的に学習に取り組もうとする児童の姿が多く見られた。	今後も、校内研究や学力向上の取組を継続する中で、さらにカリキュラムマネジメントや地域学校協働活動推進員との連携を進め、児童が主体的に学ぶ機会の充実を図っていきたい。
GIGAスクール端末の効果的な活用	3	GIGAスクール端末の活用の推進（授業支援ソフト等の授業での活用の推進）	GIGAスクール端末の活用により、児童の情報活用能力や学習意欲の向上につながってきている。また、児童の授業支援ソフトの活用やデジタルドリルによる習熟も行っている。また、校内でもサイバー講習会等を実施し、情報モラル教育の推進も徐々に進めてきた。	今後も授業支援ソフトやデジタルドリルの活用を推進し、主体的・対話的で深い学びによる確かな学力の定着を目指して取組を進めていく。また、次年度は、情報モラル教育を各学年の年間計画上で明確に位置付けることで、児童の情報モラルの向上も進めていきたい。
異学年交流計画の推進	1・2・3	異学年交流の推進	定期的に学年リーダーを中心とした会議を行い、計画的に異学年交流を行うことができた。また、学校行事を核にした交流だけではなく、日常や各教科、特別活動など様々な場面で児童同士が交流する姿が見られるようになってきた。	異学年交流の目的を明確にし、今後も取組を進めていく。また、カリキュラムマネジメントの視点で、行事や各教科等の学習内容と関連付けることで、異学年交流のさらなる充実を目指していく。

<p>児童の主体性を生かした約束やきまりの見直し</p>	<p>1・2・3</p>	<p>「厚小大樹宣言」「みんなのやくそく」の効果的な活用</p>	<p>150周年記念式典で児童会によってつくられた「厚小大樹宣言」を基本的な理念に組み込むことで、児童の主体性を生かしたきまりとなるように取り組んだ。また、「みんなのやくそく」や「厚小の学校生活」を各教室に掲示し、学級指導を行い、児童一人一人が意識して生活できるよう工夫した。さらに運営委員会が主体となって挨拶や廊下歩行等を意識できるよう、月ごとの目標を立て、教室掲示や呼びかけを行う等の活動ができ、児童の主体性を生かした取組を行うことができた。</p>	<p>児童の主体性を生かして、特別活動との連携を図りながら、はじめある学校生活が送れるよう支援を進めていく。また、教職員が一体となって統一した指導ができるよう、年度内に約束やきまりについて共通理解の場を設け、見直しを図る。</p>
<p>児童が安心して学校生活を送るための支援の充実</p>	<p>2・3</p>	<p>ケース会議の開催や組織的な対応</p>	<p>児童アンケート・いじめアンケート・ころの天気予報等を定期的実施した。アンケート後には、児童理解週間として、相談期間を設けることで実態把握や児童指導に生かすことが出来た。学級担任・児童指導・教育相談コーディネーター・ころスマイル支援員・養護教諭・スクールカウンセラーが連絡を密にし体制づくりを行ってきた。火5の会やケース会による情報共有と方針を決定したり、児童指導支援教育研修会を開催したり、関係機関との連携をとったりすることで早期に問題への対応を進めてきた。また、新規事業としてフリールールの運営を実施し、児童が安心して過ごせる居場所として支援の充実を図ることができた。支援を要する児童が一定数見られるという実態もあり、専門的な人員確保や校内支援体制の維持は今後も課題である。</p>	<p>不安や悩みを抱えている児童への早期発見・早期対応が重要と考えている。学年での情報共有にとどまらず、教育相談コーディネーターや児童指導担当を中心に、今後も組織的に情報共有し、複数体制で課題に対応していく必要があると考えている。特に、支援が必要な児童については家庭のみならず、関係機関との連携を強化していく必要がある。今後も、教育相談コーディネーターを中心に適切な支援体制の構築を進め、組織的な対応の充実を図っていく。</p>
<p>人権教育の推進</p>	<p>2・3</p>	<p>児童の人権週間の取組</p>	<p>初めての試みとして人権週間と国際理解教育を併せた取組を行った。人権週間としてはピンクシャツデーを行い、メッセージの掲示など新たな取組も加わり、児童が人権について意識を向けるきっかけを作ることができた。また、福祉委員が主体となって平等・挨拶・言葉遣い・笑顔などのテーマに合わせたポスターの掲示や人権に関する動画放映などに取り組んだ。さらにPCルームに展示会場を設置し、人権に関わる図書を紹介しつつ、国際理解に関して国際教室に通う児童の母国を紹介したり、国際理解に関するクイズに取り組ませたりして人権教育の充実を図ることができた。</p>	<p>今後も、人権週間など児童が主体になって取り組める活動をさらに進めていきたい。また、道徳やSDGsとの関連も視野に入れながら、計画的に人権週間を位置付け、継続した取組としていく。</p>
<p>児童の体力向上</p>	<p>1・3</p>	<p>新体力テスト、冬の運動週間の取組</p>	<p>ペア学年で新体力テストを行った。上学年は手本となるよう運動を行い、下学年は上学年の様子を見ながら記録を伸ばせるよう取り組んだ。また、冬の運動週間では、学級ごとの長縄跳びに挑戦し、記録やめあてに向かって練習を続けた。友達と共に挑戦する姿や、互いに声をかけ合う姿も見られた。一方で、様々な運動について経験不足による自信のなさや体力の低下が懸念される。継続的な運動習慣につながるような機会を作っていくことが今後の課題となる。</p>	<p>児童同士が互いを思いやりながら運動に取り組む、体力の向上につながる機会を作っていく。また、運動に関わる行事のめあてを児童に分かるように提示し、活動の意義を高めるとともに、主体的に取り組めるように促す。冬の運動週間の長縄跳びは、楽しさを味わった児童が多かったことから、来年度も継続して取り組んでいきたい。</p>

児童の防犯・防災・安全教育の充実	1・3	交通安全教室、避難訓練・防災の日の設定	交通安全教室には、警察や交通指導員、地域の見守りの方々、保護者にも参加いただき地域連携の視点からも意義のある活動になった。今年度より、3学期の避難訓練を予告なしとし、より実際に近い形で訓練を行った。また、月一度の防災の日には、交通安全(チリリンタイム)や防犯訓練等様々な場面について児童と考える機会を設け、児童の「自分の身は自分で守る」の安全に対する意識を高めることができた。	今後も内容を見直ししながら、継続的に取り組み、児童の安全面に対する意識をより高めていきたい。また、交通安全教室のように、今後も保護者や地域と連携を図りながら、児童の安全意識をさらに高めていきたい。
保護者・地域への情報の発信	3	学校だよりや学校HPでの積極的な情報発信	各家庭や地域に向けて、学校だよりや学校HPでの発信を通して、随時学校での児童の様子を知らせた。保護者連絡ツールでの配信になったことにより、気軽に学校の情報を知ることができるようになった。また、サポート隊、PTAなどの活動についても学校HPや連絡アプリなどを通して、周知を行った。今年度の取組として、地域学校協働活動推進員の活用により、保護者や地域の方が学校の活動に参画する機会が増えた。	今後も学校だよりや学校HPの更なる充実を、また、連絡アプリでの迅速な発信を図っていく。学校運営協議会やサポート隊やPTAの活動、地域学校協働活動推進員による活動についても、積極的に周知を行い、地域とともにある学校を目指していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

児童・保護者の「学校づくりアンケート」の結果では、本校の教育活動が概ね評価されていると言えるが、今後も学校教育の充実を目指して欲しい。また、児童が安心・安全に学校生活を送るためにも、さらに地域との連携を進めていくことが望まれ、情報発信も進めて欲しいと考えている。また、行政には施設面の改善や人的配置を進めていただき、今後も教職員による児童に寄り添った教育活動が展開されることを期待している。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

保護者や地域の方々からの多くのご支援をいただきながら学校教育目標の実現に向けて教育活動を実践してきた。カリキュラムマネジメントの推進や地域学校協働活動推進員との連携により、地域に根ざした特色ある教育活動も展開できるようになってきている。次年度に向けて、さらに地域との連携を図りながら、より充実した教育計画や支援体制を構築し、児童にとって安心・安全で居心地の良い、楽しい学校づくりを目指していきたい。